

目次

まえがき

第一章 保育は福祉 ― 幼児期の育ち ―

- 1 若い母親の子育て不安 ― 私を支えたもの ― (幼児の母)
- 2 子どもの育ちを支える保育園 ― 保護者と共に ― (保育士)
- 3 父母とともにつくる幼稚園 ― 福祉の視点をもつて ― (幼稚園 園長夫妻)
- 4 子どもの笑顔を大切に ― 親の困難に寄り添いながら ― (保育園 園長)

第二章 子どもが共に伸びていくために ― 学童期の育ち ―

- 5 子どもたちの最善の利益を ― 生活の中で力を ― (学童保育指導員)
- 6 子どもの「放課後のおうち」だからこそ
― 子どもたち・保護者たちをつないで支える ― (学童保育指導員)

第三章 子どもたちの話が聴きたくて — 教員の声 —

- 7 小学校の「今」 — 子どもたちの姿、教師としての働き方 — (小学校教員)
- 8 パワハラ風の嵐の中で — 障害のある子と触れあつて — (中学校教員)
- 9 教師の生きがい — 生徒の話を聴きたくて教員になった — (高校教員)

第四章 心が元気になつてくれればいい — 不登校 —

- 10 心が元気になつてくれればいい — 息子は私と違う人格 — (母)
- 11 子どもをもつと理解していれば — 教育懇談会で — (母・祖母・保育士)
- 12 不登校をのりこえて — 信頼できる人に出会つて — (高校生)
- 13 不登校からの出発 — あのととき・これから — (大学生)

第五章 育ち直しはいつでもできる — 発達障害 —

- 14 発達障害の子どもの理解を — 合理的配慮がほしい — (父母)
- 15 おそろおそろ足を踏み出す — 僕を支えてくれた人とともに — (塾講師)
- 16 わが子の「成長したい」思いをサポート — 発達障害の兆しをのりこえて — (母)

17 困難を抱えた子どもたちと共に — 心のこえを聴き取りながら — (SC)

第六章 子どものサインを見逃さず — 貧困・虐待 —

18 貧困の連鎖をくいとめる — 子どもの生活に寄り添って — (無料塾スタッフ)
19 虐待からの立ち上がり — 癒やされる過程を — (被虐待の成人)

補章 子どものリアルから見えてくるもの

20 子どもと学校のリアル — 活動から見えてきた — (SSW)

まとめ あいちが育む共生と支援の真実

— そばを歩む他者と紡ぐ希望の物語 —